

多様な森林体験を促進する人材の育成・活用

【信州の木活用課・自然保護課】

1 必要性・独自性 【基本方針活用事業より】

- ・本県の強みである豊かな森林資源や森林空間を維持していくには、地域による自立的・持続的な森林の利活用が必要。
- ・とりわけ将来の森林保全を担う子どもたちに対する森林体験の機会を拡大し、将来の森林保全の担い手の裾野を広げることが必要。
- ・このためには、森林セラピーやエコツーリズムなど、森林資源を有効に活用し、観光や健康、環境、教育等の他産業と結び付け、地域を支える多様な産業や交流を創出できる人材を育成することが必要。

2 目指す成果・成果目標 【基本方針活用事業より】

- ・エコツーリズムガイドや森林セラピー等地域コーディネーターの育成

【取組により期待される効果】

- ・セラピー体験者の健康増進・維持、森林への興味促進
- ・周遊型観光の促進と県内知名度の向上

3 事業の概要

【森林セラピー推進支援事業（人材育成等）】

- ・森林セラピーコーディネーター等の育成を通じて、セラピー基地等の魅力向上、利用者の増加等を図る。

事業内容	事業主体	R2年度 事業計画及び目標		補助率	予算額
・協議会の開催 ・人材育成メニューの作成	県	コーディネーターの育成	10人以上 (H30～R4年度 累積目標)	—	3,973

【エコツーリズムガイド人材育成事業】

- ・県内全域でエコツーリズムを推進するため、エコツーリズムガイドの育成を図る。

事業内容	事業主体	R2年度 事業計画及び目標		補助率	予算額
・ガイドの育成研修	県	ガイドの育成	80人 (R1～R4年度 累積目標)	—	1,564

4 見える化に向けた取組、取組の継続性、他地域への波及効果等

- ・森林セラピー利用者への森林の持つ魅力の訴求と基地運営の継続を図るとともに、利用者増加による集客効果を他地域へ波及し、地域資源の掘り起しへ繋げる。
- ・県内で活躍するエコツーリズムガイドを育成することで、参加者が、エコツアーを通じて、森林・草原環境に対する理解を深め、自然環境保全意識の向上につながる。

《実施例》

セラピーガイド研修		エコツーリズムガイド育成研修（霧ヶ峰自然保護センター）	
			
ガイド研修（南箕輪村）	コーディネーター研修（木島平）	フィールドワーク	座学